

## 「はず」の英訳と多義性 — 『こゝろ』を例に—

木下りか

武庫川女子大学

kishita@mukogawa-u.ac.jp

### 1. はじめに

夏目漱石の『こゝろ』は、海外に広く紹介されており、日本文学の中で、英語母語話者が手にとる機会が多い作品である。本発表は、『こゝろ』における認識的モダリティ形式「はず」とその英語翻訳と対照することで、英語母語話者が理解しにくいと推測される「はず」の使用実態について記述することを目的とする。英訳と対照し、「一对多」「多対一」の対応関係を示す場合に注目し、母語を用いて考えた場合の「はず」のわかりにくさを探っていく。

### 2. 『こゝろ』とその英訳

(1) 『こゝろ』の英訳

① Kondo Ineko(1941) ② McClellan, Edwin(1957) ③ McKinney, Meredith(2010)

表1 「はず」の使用数

	使用数
肯定形(はずだ)	26
否定形(はずがない)	16

表2 「べきはず」の使用数

	前接形	使用数
肯定形(はずだ)	べき	8
	φ	18

### 3. 「べきはず」と「はず」—異なる形式の英訳

#### 3.1 「べきはず」

山口(2001): 「はず」は近世前期に義務や当為を表す用法を持つようになったが、このような用法は、「その後まで続かなかった。そういう意味表示を要する場合には、近世も享保ごろを境にして(中略)上接の連体句に助動詞「べし」の連体形を共起させ、その意を示す言い方が生じてくる」(p. 129)。その場合「べき」がその義務や当為の意を担う。その結果「はずだ」自体の働きはむしろ推定の表示にとどまることになる。」(p. 129)

松本(2012): 明治後半期～平成までの「べきはず」の使用数を、近代女性雑誌、国会会議録、新聞記事などを用いて調査。「べきはず(だ)」の使用頻度は、この1世紀ほどの間に百分の1以下に低減した」(p. 1)。これは「べき」と「はずだ」双方の語義・用法が狭まり両者に共通する意味が希薄化、それぞれ別の心情表現として特化した結果」(p. 1)である。

## 3.2 「べきはず」の英訳

表3 「べきはず」の使用例

番号	原文	マックレラン訳	マッキニー訳
B1	けれども実際彼の母が病気であるとすれば彼は固より帰るべきはずであった。	It was, however, clear that if his mother was turly ill, he <u>should</u> go home.	But if his mother really was ill, he clearly <u>should</u> go home.
B2	私たちは最も幸福に生れた人間の一对であるべきはずでず	..., we <u>should</u> be the happiest of couples.	..., we <u>should</u> be the happiest of couples.
B3	最も幸福に生れた人間の一对であるべきはずでず	...we <u>should</u> be the happiest of couples.	..., we <u>should</u> be the happiest of couples.
B4	先生はなぜ幸福な人間といきらないで、あるべきはずであると断わったのか。	Why " <u>should</u> be"?	Why did he say " <u>should</u> be"?
B5	当然眼を通すべきはずでありながら	...of course, such necessary books...	...I <u>should</u> have read...
B6	私は当然自分の心をKに打ち明けるべきはずだと	...I <u>should</u> be honest to,	It seemed clear to me that I <u>should</u> reveal my heart to K,
B7	幸福であるべきはずでありながら、それほど幸福でないのだろうか。	Why did he not say, "we are the happiest of couples"? Was Sense indeed happy?	Sensei <u>had every rezson</u> to be happy, but was he in fact?
B8	じゃ先生がそう変って行かれる原因がちゃんと解るべきはずですがね	Surely, then, you <u>must</u> know the cause of the change.	Then surely you <u>must</u> have a good idea of what brought about the change.

(B1)～(B6) : should (「推量」と類似 cf. 表7)

## 4. 「はず」の多様な用法と英訳

## 4.1 「はず」の用法

三宅(1993)、松田(1994)、田村(1995)、岡部(1998)、中村(2003)など

(2) 太郎も賛成してくれるはずだ。 【推量 8例 表7】

(3) どうりで暑いはずだ。クーラーが切れている。 【納得 1例 表4】

(4) 「阿佐田貴恵って女の子……ご存知ですか!？」「阿佐田? たしか一年前に治療したことがあったはずだ。」 (三宅 1993 より) 【記憶 2例 表6】

(5) 「家族で恐山へ行くはずだったの?」私は言った。<sup>1)</sup> (松田 1994 より) 【予定 7例 表5】

(6) 奇妙な錯覚だ。確かに、白星をつかんだのはヤクルトで巨人は五割に戻る痛い敗戦を喫したはずだ。が、試合後野村監督と長嶋監督の表情が逆転している。松井のせいだ。

(松田 1994 より) 【確認 0例】

表4 「納得」の使用例

番号	原文	マックレラン訳	マッキニー訳
N1	ああして長く寝ているんだから胃も悪くなるはずだね	..., <u>nowonder</u> his stomach is upset.	His stomach <u>must</u> be upset from being bedridden for so long,

## 4.2 「予定(Y)」の英訳

表5 「予定」の使用例

番号	原文	マックレラン訳	マッキニー訳
Y1	その年の六月に卒業するはずの私は、	I <u>was due to</u> graduate in June that year...	If I <u>were to</u> graduate this June as expected,
Y2	二、三日うちに帰国するはずになっていたので、	As I <u>was due to</u> go home in two or three days' time,	I <u>was due to</u> go back to my family home in two or three days,
Y3	お前は今日東京へ行くはずじゃなかったか	<u>Were you not going to</u> Tokyo today?	Wasn't this the day <u>you were going back to</u> Tokyo?
Y4	今に癒ったら東京へ遊びにいらっしやるはずじゃありませんか。	...you <u>are coming to</u> Tokyo to enjoy yourself when you are better.	Didn't you say you'd take a trip to Tokyo when you were well again?
Y5	その日はちょうど主治医が町から院長を連れてくるはずになっていたの	..., since we were <u>expecting</u> our regular doctor to come with the chief physician of the hospital.	That day the doctor <u>was coming</u> with the hospital's head physician,
Y6	私はその前から両親の許可を得て、東京へ出るはずになっていましたので、	?	I had already gained my parents' permission to go up to Tokyo,
Y7	その日は時間割からいうと、Kよりも私のほうが先に帰るはずになっていました。	Normally, on that day of the week, my lectures ended earlier than K's, and so I went home <u>assuming</u> that K would not yet be back.	Our <u>schedules</u> meant that I would get back home before K did.

(Y1)～(Y7): be due to, be ~ing (「予定」は、「べきはず」や「推量」と異なる)

## 4.3 「記憶(K)」「推量(S)」の英訳

表6 「記憶」の使用例

番号	原文	マックレラン訳	マッキニー訳
K1	たしかしまつてあるはずですが	It <u>should</u> be somewhere in the house.	...I <u>would</u> have put it away somewhere,
K2	そのくらいなら今手元にあるはずだから	I <u>am sure</u> we can give it to you right away.	I have enough on hand to cover the amount, ...

表7 「推量」の使用例

番号	原文	マックレラン訳	マッキニー訳
S1	またないはずであるのに、やはり何かある。	<u>Indeed</u> , there was no reason why there should be.	Nothing, <u>it seemed</u> , troubled her relationship with her husband, what could be?
S2	いつもの私ならすぐに何とかいうはずであったが	Ordinally, I <u>would</u> have said something,	Normally I <u>would</u> have made some remonstrance,
S3	能く心得ているはずだからね	I <u>should</u> know how to look after it better than anyone else.	...naturally I know best how to look after it,
S4	父はたしかにそれを記憶しているはずであった。	..., then my father <u>should</u> have remembered this.	<u>Surely</u> my father remembered.
S5	とにかく私の手紙はまだ向うへ着いていないはずだから、	Sensei <u>cannot</u> have received my letter yet.	Anyway, my letter <u>won't</u> have reached him yet,
S6	もう解っているはずですよ。	...you <u>ought to</u> know already	...you <u>must</u> already understand it.
S7	その信念が先生の心に好く映るはずだと私は思いますが	Such a conviction <u>must</u> surely be known to Sensei.	...I think that conviction <u>would</u> reveal itself in Sensei's heart as well.
S8	世の中に知れ渡っているはずだと思いつ過ぎる癖があります。	..., in that we tend to <u>assume</u> that academic matters, whether important or not, are well-known throughout all walks of life.	..., we are far too inclined to <u>assume</u> that the world is thoroughly...

(K1) (K2), (S1)～(S5): should, be sure, indeed など (「記憶」と「推量」は類似)

## 4.4 must と assume

① must

(7) 「なぜですか」

「なぜだか今に解ります。今にじゃない、もう解っているはずですよ。あなたの心はとっくの昔からすでに恋で動いているじゃありませんか」 (S6)

(8) 「奥さんはその間始終先生といっしょにいらしたんでしょう」

「無論いましたわ。夫婦ですもの」

「じゃ先生がそう変って行かれる源因がちゃんと解るべきはずですがね」 (B8)

② assume

(9) 我々はまた比較的内部的の空気ばかり吸っているので、校内の事は細大ともに世の中に知れわたっているはずだと思いきる癖があります。 (S8)

(10) 時間割からいうと、Kよりも私のほうが先に帰るはずになっていました。 (Y7)

5. おわりに

〈i〉「べきはず」と「はず (推量)」とでは、英訳が類似する。

〈ii〉「予定」とその他の用法とは、訳し分けられる。

〈iii〉「過去」と「推量」とは、英訳が類似する。

〈iv〉 must、assume で訳される「はず」の用法を特定する必要がある。

注 1) 奥田(1993)に、「予定」の「はず」は、「はずだった」の形で用いられるとの指摘がある。

主要参考文献

木下りか(2013)『認識的モダリティと推論』ひつじ書房

菅由美子(2004)「近世期資料にみる『はず』のモダリティ化」『日本語文法』4-2 pp. 186-201

徳永光展(2016)「夏目漱石『心』英訳の状況—Meredith McKinneyの翻訳をめぐる—」『福岡工業大学研究論集』pp. 27-33

中村亘 (2003)「『はず』における推論—〈予定〉〈記憶〉〈確認〉をめぐる—」『日本語教育』117号 pp. 13-22

松本 隆(2012)「近現代語データベース検索用例からみた『べきはずだ』の衰退過程」『日本研究センター研究年報』1 pp. 1-21

山口堯二(2001)「『はずだ』の成立」『國語と國文學』79-11 pp. 119-129

資料

Soseki Natsume *Kokoro* translated by Edwin McClellan, Dover Publications, 2006 (an unabridged republication of the edition published by Henry Regney Company, 1957)

Soseki Natsume *Kokoro* translated by Meredith Mckinney, Penguin Books, 2010